

# 目次

第1章 序論 .....	1
1.1. 研究の背景 .....	1
1.2 研究の目的 .....	4
第2章 「ジェンダーレス男子」とは何か .....	6
2.1 「ジェンダーレス男子」の誕生と広がり .....	6
2.2 「ジェンダーレス男子」の定義 .....	9
2.3 「ジェンダーレス男子」の形態 .....	9
第3章 研究の方法 .....	11
3.1. 調査対象とその分類 .....	11
3.2 調査方法 .....	12
3.2.1 資料の収集法と資料概要 .....	12
3.2.2 分析の方法 .....	14
第4章 分析結果 .....	26
4.1 世代別にみる「ジェンダーレス男子」本人の語り .....	26
4.1.1 資料1：『ジェンダーレス男子。』（2015） .....	26
4.1.2 資料2（1）：『ジェンダーレス Style—オシャレ男子—』 （2016） .....	33
4.1.3 一次的語りの考察 .....	40
4.2 階層別にみる「ジェンダーレス男子」現象の語り .....	41
4.2.1 資料2（2）：『ジェンダーレス Style—オシャレ男子—』 （2016） .....	41
4.2.2 資料3：ELLE OLINE（2017.05.30） .....	44
4.2.3 資料4：読モ Boys&Girls におけるインタビュー .....	47

4.2.4	資料5：Ranzuki（2015年12月号）に関する一連の出来事.....	50
4.2.5	資料6：CLASSY（2016年8月号）.....	54
4.2.6	資料7：日本テレビ「ナカイの窓」（2015.11.11放送回）.....	56
4.2.7	資料8：日本テレビ「解決！ナイナイアンサー」（2015.09.01放送回）.....	57
4.2.8	階層別にみる語りの考察.....	60
第5章	考察.....	61
5.1	語りの実態.....	61
5.2	「男らしさ」「女らしさ」規範がもたらしたもの.....	62
第6章	結論.....	64
	謝辞.....	65
	参考文献.....	66

## 第1章 序論

### 1.1. 研究の背景

美容やファッションとジェンダー規範の関わりは、非常に根深く強固である。従来の「女らしさ」「男らしさ」規範においては、可愛く美しく優しい女性と強くたくましい男性が賛美されてきた。その規範は人々を拘束し、女性は美容や化粧、窮屈な衣類にしばりつけられ、反対に男性は現在でも化粧をすることやスカートをはくことをタブー視され、美しくなるために努力し時間や費用をかけるのは「男らしくない」とされてきた。

今日では、女性のジェンダーに関する問題意識は社会の中でも浸透し、女性は「女らしさ」規範から解放されつつあると考えられる。その傾向はファッションにもみられ、女性が男性の服を着てもお洒落な着こなしとして許されるようになった。

その一方で、男性に対しては未だ「男らしさ」規範に従うことが求められており、男性が女性の服を着ると「女装」と言われ、化粧をすると「オカマ」と言われてしまう。このように、男性の場合、「男らしさ」を拒否することは男というセクシュアリティの拒否と結び付けられるのである。

だが、この「男らしさ」規範にとらわれない形で自分らしさを表現しようとする若者たちがいる。それが、近年誕生した「ジェンダーレス男子」である。

「ジェンダーレス男子」という言葉は、2012年頃に生まれ、2015年頃からメディアでも取り上げられて広く認知されることとなった。「ジェンダーレス男子」とは、そのスタイルブックによれば、「男らしさ」や「女らしさ」ではなく「自分らしく」あることを何より大事にして、自分の

思うままに自由に生きる男子のことであるという。彼らの特徴は、レディースもメンズも着こなす自由なファッションや細く華奢なスタイル、髪型やメイク、ネイルも行う美意識の高さである。また、彼らは決して女性になりたいわけではなく、加えてヘテロセクシャルであることも大きな特徴である。自分の好きなように生きることで、「男らしさ」や「女らしさ」を飛び越えようとする存在、それこそが「ジェンダーレス男子」のようだ。

この「ジェンダーレス男子」は、代表的な「ジェンダーレス男子」モデルを中心にメディアやSNSを通して広まり、現在では自分らしさや美を追求する彼らのファッションやライフスタイルが男女問わず一部の若者の憧れの対象であるとともに女性からモテる男子のジャンルの一つにもなっている。

この「ジェンダーレス男子」の前身とも呼べるようなものとして、1990年代半ばに流行した「フェミ男」が挙げられる。フェミ男とは、女性を意味する **female** または **feminine** からきたもので、体型や物腰、ファッションなど、女性っぽい雰囲気を漂わせている少年のことであった。具体的には体の線が細く、体にはりつくようなサイズの小さいTシャツ、すその広がったパンツやスカートを着用し、ピアスやアクセサリを身につけるといような特徴があったようである。そのような点ではフェミ男は「ジェンダーレス男子」に良く似ているが、フェミ男は「女性的」な男性という扱いだったのに対し、「ジェンダーレス男子」は従来の「男らしさ」「女らしさ」に囚われない男性であり、その語られ方には相違があると言えよう。

また、この「ジェンダーレス男子」現象は、その受容のされ方に関しても新しさがあるように思われる。2008年頃に話題となった「草食系男

子」の場合、これも従来の男性性を拒否する若者の特徴を表したものであったが、これに対する人々の反応は様々であった。草食系男子は優しく穏やかで魅力的であるというような肯定的意見もある一方で、軟弱であり頼りがいが無く、様々なことへの意欲も低いという否定的な意見も数多くあり、メディアでは草食系男子が少子化を進める、だとか、日本経済の将来を危うくさせる、という論調での揶揄も数多くみられた。

このように、草食系男子は昔を懐古し現在の若者をバッシングする道具として用いられることも多かった。しかし、「ジェンダーレス男子」に関しては「気持ち悪い」等の声はあるものの、特にメディアにおいてはこの現象を極端に否定的に扱うことは少ないように感じられる。例えば、女性誌では美容やメイクのお手本として、男性誌では新たなおしゃれとして「ジェンダーレス男子」が紹介され、テレビ番組などでも同様の傾向があるようである。

そのように考えると、一見「ジェンダーレス男子」現象は、若者が従来のジェンダー規範から解放されようとする動きであり、社会全体もその動きを受け入れようとしているように思われる。

しかし、本当に「ジェンダーレス男子」現象を社会がジェンダーフリーに向かっている動きであると簡単に片づけてよいのだろうか。

私は二つの理由からこの「ジェンダーレス男子」現象を男性側からのジェンダーフリーだと手放しに喜べないとする。一点目は、「ジェンダーレス男子」と呼ばれる男性たちが、「男らしさ」をはらんでいるように語られており、それによって社会から比較的抵抗を受けることなく受け入れられているのではと考えるからである。

例えば、「ジェンダーレス男子」は美容やファッションにはこだわるが、積極的に家事をしているとは描かれない。また、一部の「ジェンダーレ

ス男子」は恋愛に関して積極的であるということを強調する語りを行っており、これまで「男らしくない」と批判されてきた「草食系男子」（深澤，2006）とは正反対ともいえるような特徴をもっている。

しかし他方では、性欲や食欲が全くない（またはそれを積極的にアピールしない）という「ジェンダーレス男子」も存在する。彼らは「ジェンダーレス男子」の中でも特に色白で華奢な外見をしており、メディアでは彼らの体重やウエストサイズを強調し女性たちがそれに驚愕するという場面が度々存在する。このように、美しさや痩せ体型を賛美する描き方は、「女は色白で痩せていなければならない」というような、これまで女性が縛られてきた「女らしさ」規範を体現しているかのようである。

美やファッションの憧れとしての「ジェンダーレス男子」が「女らしさ」に再び価値を付与し、その流行に女性たちが従おうとしているとすれば、この現象はジェンダーフリー現象とは言い難いのではないか。これが「ジェンダーレス男子」現象に対し疑問に感じる二つ目の理由である。

以上から、「ジェンダーレス男子」現象を考える上で、「ジェンダーレス男子」が語られる際に「男らしさ」と「女らしさ」に近い特徴が強調されている可能性を探ることは重要であると考えます。そして、そのような「男らしさ」と「女らしさ」をはらんだ「ジェンダーレス男子」現象は、その特徴ゆえに社会に受容されているのではと考える。

## 1.2 研究の目的

これまでの研究では、雑誌やブログなどのメディア分析やアンケート調査などにより、草食系男子やファッション・美容のような男性側からの外面的・内面的ジェンダーフリー現象について考察されてきた。しか

し、「ジェンダーレス男子」に関しては、その流行がまだ新しいものであることなどから未だ研究はされてきていない。

そこで本研究では、語られ方という視点から「ジェンダーレス男子」現象を考察したいと考える。実態ではなく語られ方に着目する理由としては、その実態が必ずしも一つに限定できるものではない一方で語りは共通性が見られるということや、語りに注目することで人々が「ジェンダーレス男子」をどのような文脈に位置づけたいかという役割期待をみてとれるということが挙げられる。

また、「ジェンダーレス男子達の実態」とされているものは、彼らが SNS 等を通して発信した情報であることが非常に多く、それらの情報は本人による語りによるものであることから、そこから見られる特徴を実態として扱うことは不適切と考える。

以上の方針をもとに、本研究では、まず「ジェンダーレス男子」がどのように誕生しどんな形態をとっているのかをみた後に、「ジェンダーレス男子」の語られ方が「男らしさ」「女らしさ」規範とどのように関わっているのか、またそれは人々の受容の仕方に変化をもたらしたのかについて明らかにしていく。

## 第2章 「ジェンダーレス男子」とは何か

この章では、「ジェンダーレス男子」誕生の前後の背景と、いかにして「ジェンダーレス男子」現象が広がったのかをみる。そして、それらをもとに「ジェンダーレス男子」の定義づけと形態の分類を行う。

### 2.1 「ジェンダーレス男子」の誕生と広がり

「ジェンダーレス男子」の歴史は未だ非常に浅い。その始まりは、読者モデルのこんどうようちと、後に「ジェンダーレス男子」のプロデューサーとなる丸本貴司という二人の人物であった。

2011年、自身のファッションを紹介するブログが有名になったことで撮影のために東京に来たこんどうようちは、読者モデルのファッションサイトである『読モ BOYS&GIRLS』の代表であり、ファッションブランド『WEGO』、芸能プロダクション『レキシントン』のプロデューサーである丸本と出会う。その際丸本は、「男らしさ」や「女らしさ」にとられず自分らしさを追求するこんどうようちの精神に大きな衝撃を受けたという。「ジェンダーレス男子」モデルの写真を多く撮ることとなったカメラマンの米原康正は、その後『ジェンダーレス男子。』の中で当時を振り返り、「渋谷っぽいというか、オラオラ的な体育会系の「俺は男だ！」みたいなノリになじめない、いわば原宿を中心とした文化系の感覚を持った男の子の、新しい生き方。それをようちくんが完全に体現していた」と述べている。

こんどうようちの存在こそ、これからの若者たちに対する「自由に生きればいい」というメッセージそのものとなると考えた丸本は、この出会いをきっかけとして、新しい生き方のモデルケースとして「ジェンダーレス男子」というプロジェクトを立ち上げる。そして、丸本のスカウ



トから WEGO でスタッフ兼読者モデルとしての活動をはじめたこんどうようぢは、徐々に「ジェンダーレス男子」のカリスマとして 10 代の男女に影響を与えることとなった。

2013 年には、地方を回り始めたことで一部のコアな若い女性ファンがつくようになった。その年の終わり頃には、後にこんどうようぢと並んで「ジェンダーレス男子」モデルの中心人物として知られることとなるとまんなど、若い男性層も彼のファンミーティングに訪れるようになる。その活動の中で、丸本はこんどうようぢに憧れる男性層を次世代の「ジェンダーレス男子」として集め、彼のプロジェクトは更に大きなものとなっていった。そして 2015 年に入ってから、**「ジェンダーレス男子」**のテレビ番組や雑誌などのメディアへの出演も増え、その認知度は社会全体に急激に高まっていくこととなる。

このように、こんどうようぢという青年の生き方やファッションスタイルが丸本貴司というプロデューサーと出会ったことで初代「ジェンダーレス男子」が誕生した。そして、こんどうようぢに共感し憧れた若者たちの間で次々に次世代の「ジェンダーレス男子」が生まれ、さらに彼らが他の若者たちに影響を与えることで、加速度的に「ジェンダーレス男子」現象が広がっていった。

「ジェンダーレス男子」現象の誕生と広がりにおいて非常に重要な役割を担っていたのが、ブログや Twitter、Instagram などの SNS である。実際に、こんどうようぢが初めに有名になるきっかけとなったのもブログであり、2009 年 4 月当時大阪府の普通の高校生であった彼が始めたブログは、同年冬には一日 60 万アクセスを記録することとなった。現在でも、彼の Twitter は 28 万人、Instagram は 12 万人にフォローされるなど大きな影響力を持っている。とまんなど他の「ジェンダーレス男

子」達も SNS を巧みに活用して自己プロデュースやブランディングを行っており、「ジェンダーレス男子」現象の広がりを語る上で SNS は欠かせない存在となっている。

「ジェンダーレス男子」現象の仕掛け人となった丸本も、SNS における情報の広がりの速さに注目していた一人だ。さらに、こんどうようちのキャラクターや思想に共感するファンは圧倒的に SNS に多いと考えた丸本は、メディアよりも SNS を中心とした活動のプロデュースに力を入れると明言している。

加えて、「ジェンダーレス男子」現象が SNS によって広がることが出来たもう一つの理由に、SNS とマスメディアの特性の違いが挙げられる。SNS においては本人が直接情報を発信できるのに対し、マスメディアにおいてはその送り手のジェンダー的偏りやスポンサーの都合、視聴者を引き付けるテレビ的インパクトを求められるなどの影響を受けざるを得ない。

丸本と米原もこの点の重要性について言及しており、「ジェンダーレス男子」現象がメディアの手で描かれることで単なる若者の間の流行として商業的構造に組み込まれることの危険性に触れている。そして、この現象をメディアの中で消費される一過性のブームとしてではなく、新しい生き方という文化として広め浸透させることが重要であるという考えを示し、実際に SNS をそのための有効な手段として用いている。これは、誰もが容易に情報を受信・発信できる今日だからこそ可能であり、これまでのジェンダーフリー現象には見られなかった新たな特徴であると言えるだろう。

## 2.2 「ジェンダーレス男子」の定義

「ジェンダーレス男子」の定義については、その仕掛け人である丸本貴司が自身のコラムの中で以下のように述べている。

ジェンダーレス男子とは、オシャレをするときに“男は男らしく” “女は女らしく”という固定概念を取っ払って、“男でも美しく” “男でもキレイに” というような、なりたい自分になるために“ジェンダー（性）”から自由になった男子のことを言います。（「note ジェンダーレス男子について」, 2017/10/03）

本研究では、この丸本の見解に基づき、「ジェンダーレス男子」を「男らしさ」や「女らしさ」というジェンダー規範にとらわれず、自分らしさを追求する男子」と定義づける。

また、「ジェンダーレス男子」と彼らを取り巻く人々やメディアにより生じた物事を指して、「ジェンダーレス男子」現象と呼ぶこととする。

## 2.3 「ジェンダーレス男子」の形態

「ジェンダーレス男子」の歴史は浅いが、その現象が加速度的に広がるなかで、「ジェンダーレス男子」も多様化していると考えられる。例えば、こんどうようぢは「ジェンダーレス男子」として完全にオリジナルの存在であるが、とまんはこんどうようぢに直接会って影響を受け「ジェンダーレス男子」となった世代であり、さらにその次には彼らをテレビや雑誌を介して影響を受けた世代も存在する。

このように、成り立ちだけでも「ジェンダーレス男子」というジャンルの中にも様々な形態があり、彼らを「ジェンダーレス男子」として一

括りにするのは適切でないと考える。実際に丸本も、「ジェンダーレス男子」の代表例としてこんどうようちととまんの名を挙げ、ほりえりくや Yapp! をその次世代として位置づけるなど、世代を分ける発言を度々行っている。

以上をふまえ、本研究では、丸本の見解や読者モデルとしての活動開始時期に基づき、「ジェンダーレス男子」の第一世代（2012～）をこんどうようち、第二世代（2014～）をとまん、志村禎雄、第三世代（2015以降）をほりえりく、Yapp!、木津つばさ、かじゅ魔、たくぼん他と定義する。

この3世代は成り立ちにおいてそれぞれ異なる特徴を持っており、第一世代は「ジェンダーレス男子」を誕生させた存在であり、第二世代は第一世代に影響を受け、丸本によって集められた世代、第三世代は SNS やメディアによる「ジェンダーレス男子」現象の広がりの中で影響を受けた世代であるといえる。

### 第3章 研究の方法

#### 3.1. 調査対象とその分類

調査対象は、テレビ、雑誌、インターネット上のニュースやコラム、SNS など幅広いメディアにおける、「ジェンダーレス男子」に関する語りを対象である。それらの調査対象は、1) 一次的語り（「ジェンダーレス男子」本人による語り）、2) 二次的語り（「ジェンダーレス男子」が語りを行っている場での「ジェンダーレス男子」以外による語り）、3) 三次的語り（本人は全く関わりのないところでの「ジェンダーレス男子」以外による語り）という3種類に分類し、収集する。

上記のように分類する理由は、「ジェンダーレス男子」現象が様々なメディアを介して広がるにつれて、「ジェンダーレス男子」に関する語りが性役割規との関係性のなかで変容しているのではないかと仮説を立てるためである。そのため、先のように語りを語り手別に分類して分析・比較することで、その語りの実態や変容が観察できると考える。

さらに、「ジェンダーレス男子」本人の語りである一次的語りを、第一世代の語り、第二世代の語り、第三世代の語りの3つに分類する。これは、第2章で述べたように、一次的語りの語り手である「ジェンダーレス男子」の世代別特徴を分析結果の中で明らかにするためである。

以上の調査対象の分類は表1の通りである。

1)一次的語り	「ジェンダーレス男子」本人による語り。以下の3つに分類される。 a)第一世代(2012年~)による語り ex)こんどうようぢ b)第二世代(2014年~)による語り ex)とまん、志村禎雄 c)第三世代(2015年以降)による語り ex)ほりえりく、Yapp!など
2)二次的語り	「ジェンダーレス男子」が語りを行っている場での「ジェンダーレス男子」以外による語り。 ex)「ジェンダーレス男子」が出演するテレビ番組での他の出演者やナレーションなど
3)三次的語り	「ジェンダーレス男子」とは完全に離れたところでの「ジェンダーレス男子」以外による語り。 ex)「ジェンダーレス男子」に関するブログ記事など

## 3.2 調査方法

### 3.2.1 資料の収集法と資料概要

#### ア) 資料の収集・選定

まずは今回の資料収集の方針について述べたい。一次的語りは、視聴者数や読者数が多い情報媒体を中心として、「ジェンダーレス男子」のブログや Instagram などの SNS、「ジェンダーレス男子」出演の TV 番組と雑誌から収集した。二次的語りは、上記の一次的語りが行われた場での「ジェンダーレス男子」以外による語り（他者の発言や「ジェンダーレス男子」の描かれ方）から収集した。三次的語りは、書籍やインターネット上のブログ、Twitter などから収集した。

今回は収集したそれらの資料の中から、情報媒体や内容に偏りが出ないようにして、特に人々の注目度が高く反響が大きかったものや、さまざまな語りを観察できるものを取り上げることとする。

#### イ) 資料概要

今回用いるのは以下の 8 資料である。

- ・資料 1. 『ジェンダーレス男子。』（2015）
- ・資料 2. 『ジェンダーレス Style—オシャレ男子—』（2016）
- ・資料 3. ELLE ONLINE 「人気ジェンダーレス男子 3 人に取材 男らしさって何？なぜ日本社会に“ジェンダーレス男子”は必要なのか」
- ・資料 4. 読モ Boys&Girls におけるインタビュー
  - 1) 「ほりえりく×こんどうようちインタビュー」
  - 2) 「吉次玲奈×こんどうようちインタビュー」
  - 3) 「古川優香×こんどうようちインタビュー」
  - 4) 「こんどうようち×uyu インタビュー」

5) 「座談会を緊急開催！読モ達のイマドキな香水観」

- ・資料 5. Ranzuki (2015 年 12 月号) 「ジェンダーレス男子、ようぢくんととまんくんが OUT or SAFE とぶった斬る！ え！？その服でデートに来るの？マジ！？」とそれに付随する一連の出来事
- ・資料 6. CLASSY (2016 年 8 月号) 「女顔負けの努力と美肌が自慢です 見習いたいのは“美意識高い系男子”」
- ・資料 7. 日本テレビ「ナカイの窓」(2015/11/11 放送回)
- ・資料 8. 日本テレビ「解決！ナイナイアンサー」(2015/09/01 放送回)

資料 1、2 は「ジェンダーレス男子」のスタイルブックである。この 2 冊は「ジェンダーレス男子」の教科書ともなるような位置にあり、全世代の語りが収集できることから、「ジェンダーレス男子」の語りの典型を観察できると考え、今回一次的語りの分析に用いた。同様の内容の書籍を 2 冊用いたのは、出版された時期が異なることから語りの経年変化も見られると考えたためである。また、資料 2 においては二次的語りも観察されたため、一次的語りと二次的語りの分析に用いている。

資料 3 は、ELLE という女性誌のオンライン版で、「ジェンダーレス男子」へのインタビュー記事である。ここでは一次的語りと二次的語りの分析を行う。

資料 4 は読モ Boys&Girls という若者のファッションを扱う web ページであり、「ジェンダーレス男子」モデルもこの web サイトでファッションの紹介等を行っている。今回は、「ジェンダーレス男子」が参加した対談やインタビュー 5 つを取り上げる。

資料 5 は、ぶんか社が発行していた女子高生向け月刊ファッション雑誌の一企画であり、この記事によって起こった「炎上」騒動もあわせて

分析することで一次的語り～三次的語りを観察する。

資料 6 は、光文社から刊行されている 20 代後半から 30 代の働く女性を主なターゲットとしたファッション雑誌である。ここでは一次的語りと二次的語りが観察された。どちらも女性誌であるが、読者層や扱われたテーマが異なることから今回選定した。

資料 7、8 は一次的語りと二次的語りが観察されたテレビ番組である。どちらも「ジェンダーレス男子」が大きく扱われ多くの人々に認知されることとなったバラエティ番組である。

これらの資料の詳細については、第 4 章において分析結果とともに記述することとする。

### 3.2.2 分析の方法

#### ア) 分析の方針

本研究の目的は、「ジェンダーレス男子」現象を構成する語りをみながら、この現象と性役割規範との関わりを観察することにある。そのため、今回の語りの分析においては、イ) に挙げる先行研究の中で作成された伝統的な性役割規範において「男らしさ」「女らしさ」を表す語彙リストやスケールをもとに、本研究内でも男性性と女性性を示す特性語のリストを作成し、そのリストと収集した資料を照らし合わせて、語りと性役割規範との関連度を分析するという手法をとる。

リスト作成に用いる先行研究は、1) 日本社会における伝統的性別役割規範との関連度を測ることの出来るスケールや語彙リストであり、2) そのスケールやリストが適切な方法により作成され、3) その研究内やのちの第三者による研究において妥当性・信頼性が十分に確かめられているもの、という 3 つの基準において 7 つ選定した。



イ) 用いる先行研究

・ Bem Sex Role Inventory (BSRI) (Bem 1974)

Bem は “The measurement of psychological Androgyny” において、男性性・女性性を独立した二次元のものとみなし、それを測定するため、アメリカ社会における男性・女性のそれぞれにとって望ましいとされる特性のリストに基づいて、それぞれ 20 項目からなる Masculinity スケールと Femininity スケールである「Bem Sex Role Inventory (以下 BSRI)」(表 2 参照) を作成した。その際 Bem は M 得点と F 得点の差を基準に、M が高く F が低い masculinity タイプと、その逆で M が低く F が高い femininity タイプ、両者が同程度に高い (ないしは低い) androgyny タイプの三類型を明らかにした。

表2. Bem Sex Role Inventory(BSRI)

<b>Masculinity</b>	<b>Femininity</b>	<b>Neutral items</b>
Acts as a leader	Affectionate	Adaptable
Aggressive	Cheerful	Conceited
Ambitious	Childlike	Conscientious
Analytical	Compassionate	Conventional
Assertive	Does not use harsh language	Friendly
Athletic	Eager to sooth hurt feelings	Happy
Competitive	Feminine	Helpful
Defends own beliefs	Flatterable	Inefficient
Dominant	Gentle	Jealous
Forceful	Gullible	Likable
Has leadership abilities	Loves children	Moody
Independent	Loyal	Reliable
Individualistic	Sensitive to the needs of others	Secretive
Makes decisions easily	Shy	Sincere
Masculine	Soft spoken	Solemn
Self-reliant	Sympathetic	Tactful
Self-sufficient	Tender	Theatrical
Strong personality	Understanding	Truthful
Willing to take a stand	Warm	Unpredictable
Willing to take risks	Yielding	Unsystematic

・ William, J.E. & Best, D.L.のリスト (1982)

William らは、“Measuring sex stereotypes : a thirty-nation study”  
において、300 個の形容詞リストを用いて 25 か国の男女学生に対し、  
どの形容詞が男性または女性のことを意味しているかについて評定させ  
た。その結果、25 か国中 23 か国以上で男性を意味すると評定された形  
容詞 19 個と、25 か国中 20 か国以上で女性を意味すると評定された形  
容詞 19 個からなる性役割特性語リストを作成した (表 3 参照)。

<b>Masculinity</b>	<b>Femininity</b>
Active	Affected
Adventurous	Affectionate
Aggressive	Attractive
Autocratic	Charming
Courageous	Curious
Daring	Dependent
Dominant	Dreamy
Enterprising	Fearful
Forceful	Feminine
Independent	Gentle
Masculine	Mild
Progressive	Sensitive
Robust	Sentimental
Rude	Sexy
Severe	Softhearted
Stern	Submissive
Strong	Superstitious
Unemotional	Talkative
Wise	Weak

・ Personal Attributes Questionnaire (PAQ) (Spence, Helmreich &  
Stapp, 1974)

Spence らは、Rozenkrantz ら (1986) の研究に基づき、“Masculinity  
and femininity: Their psychological dimensions, correlates, and

antecedents”の中で、性役割タイプ測定のために「Personal Attributes Questionnaire（以下 PAQ）」（表 4 参照）を開発した。PAQ では、典型的な男性を記述する特性語（M 尺度）と典型的な女性を記述する特性語（F 尺度）が区分され、各尺度のメディアン分割から生み出される 2×2 の 4 グループが、それぞれ androgynous（M、F ともにメディアン以上）、masculine（M が高く F が低い）、feminine（M が低く F が高い）、undifferentiated（M、F ともにメディアン以下）と名付けられた。

**表4. Personal Attributes Questionnaire (PAQ)**

<b>Masculinity</b>	<b>Femininity</b>
Aggressive	Not aggressive
Active	Able to devote self completely to others
Can make decisions easily	Cries very easily
Competitive	Emotional
Dominant	Excitable in a major crisis
Excitable in a major crisis	Feelings easily hurt
Feeling not easily hurt	Gentle
Feels very superior	Helpful to others
Independent	Highly needful of others' approval
Indifferent to others' approval	Home oriented
Little need for security	Kind
Never cries	Strong need for security
Never give up easily	Submissive
Self-confident	Understanding of others
Stand up well under pressure	Very aware of feelings of others
Worldly	Warm in relations with others

・ M-H-F scale（伊藤裕子 1978）

伊藤は「性役割の評価に関する研究」の中で、Masculinity、Humanity、Femininity の 3 分類各 10 項目ずつよりなる M-H-F scale を作成した。この作成にあたっては、まず男性（19～65 才、主な職業は学生・教員・会社員・自営業者）84 名、女性（18～59 才、主な職業は学生・看護師、公務員、主婦）127 名から、男性役割、女性役割に関する反応語を求めた。得られた頻度 2 以上の反応語の中から、1）出現頻度の多いこと、2）用語が適切であること、3）性役割の測定にとってより適切であること、4）きわめて類似した語の場合はより適切な方をとる、との基準

で、男性役割 55 語、女性役割 55 語のチェックリストを作成した。続いてこれを用いて、「一般に男性（女性）にとって次のような性質はどの程度重要だと思いますか」という教示のもとに、強制選択法により 7 段階評定で男性（20～60 才）40 名、女性（20～61 才）40 名から反応を求めた。その結果得られた反応より、Masculinity、Humanity、Femininity の 3 類型を導出し、各要素から 10 項目ずつ選定して M-H-F scale を作成した（表 5 参照）。

Masculinity	Femininity	Humanity
意志の強い	愛嬌のある	明るい
決断力のある	色気のある	暖かい
行動力のある	おしゃれな	頭の良い
自己主張の出来る	かわいい	健康な
指導力のある	献身的な	心の広い
信念を持った	言葉遣いの丁寧な	自分の生き方のある
大胆な	静かな	視野の広い
たくましい	従順な	誠実な
頼りがいのある	繊細な	率直な
冒険心に富んだ	優雅な	忍耐強い

・鹿内・後藤・若林（1981）が作成したスケール

鹿内らは、「女子大生の社会的・職業的役割意識の形成過程に関する研究：性役割タイプと自己能力評価を中心として」の中で、後藤（1981）および若林（1981）の研究で選別された masculine と feminine の特性語を基礎として、相互に独立な masculine と feminine の 2 次元を含む尺度を独自に作成し、性役割の 4 類型を導出した。尺度の項目構成は、職業志向における専門性の程度を異にする 4 つの短大の 1 年生を対象として行った調査をもとに、男性性項目 9 個、女性性項目 10 個、中性性項目 7 個を選んだ（表 6 参照）。また、その結果から、androgynous、

masculine、feminine、undifferentiated という 4 類型を導出した。その妥当性については、その 4 類型に当てはまる女子短大生それぞれの大学生活への適応や職業志向を通して検討を行った。

**表6. 鹿内・後藤・若林のスケール**

<b>M特性</b>	<b>F特性</b>	<b>N特性</b>
意志強固な	おしゃべりな	明るい
決断力のある	おしゃれな	頭のよい
自主的	家庭的	活発な
指導力のある	気持ちのこまかい	社交的
視野の広い	細やかな	親切的な
たくましい	繊細な	誠実な
頼もしい	線の細い	まじめな
強い	派手な	
野心のある	魅力のある	
	優雅な	

・安達・上地・浅川の日本版 BSRI (1985)

安達らは、「男性性・女性性・心理的両性性に関する研究 (I) —日本版 BSRI 作成の試み—」の中で、Bem の BSRI の作成法に順じて、独立次元の男性性・女性性尺度を作成し、その信頼性と妥当性について検討した。この研究では、尺度の項目構成決定のために予備調査を 2 度行った。一回目の予備調査では、国立大学学部生及び院生 60 名 (男女各 30 名) を対象として、1) 男性にとって望ましい特性、2) 女性にとって望ましい特性、3) 人間にとって望ましい特性各 10 語以上を記述させた。その結果得られた頻度 3 以上の 120 項目 (各 40 項目) を項目群として、第二回予備調査では、大学学部生 68 名 (男女各 34 名) と大学院生 36 名 (男女各 18 名) を対象に、1) 男性にとっての望ましさ、2) 女性にとっての望ましさを 7 ポイントスケールで評定させた。その評定結果をもとに、男性性項目は、男女両評定者とも女性より男性にとって

望ましいと評定した項目を、女性性項目は男女両評定者とも男性より女性にとって有意に望ましいと評定した項目を、中性項目は男女両評定者とも望ましさをの評定に差が無く、かつ望ましさをの評定に男女評定者間の差がない項目を 120 項目の中から選んだ。さらに、その中から、Bem の BSRI 項目と類似し、かつ t 値の高い順から各項目間のニュアンスが異なるようにして、最終的に男性性・女性性・中性性尺度各 20 項目からなる 60 項目とした (表 7 参照)。

男性性項目	女性性項目	中性項目
意志の強い	愛きょうのある	陰うつな
男らしい	明るい	おおらかな
決断力のある	あたたかい	おろかな
行動力のある	思いやりのある	快活な
自己主張のできる	女らしい	画一的な
指導力のある	謙虚な	協調性のない
自立した	子どもをかわいがる	軽率な
信念のある	しとやかな	心のせまい
精神的に強い	従順な	地道な
積極的な	純すいな	社会性のある
たくましい	親切的な	正直な
頼りがいのある	素直な	誠実な
力強い	繊細な	怠慢な
統率力のある	ちやめつけのある	誰に対しても平等に接することの出来る
独立心のある	慎み深い	つまらない
判断力のある	人に気をつかう	人情味のある
冒険心のある	人に尽くす	不道德な
明確な態度を取れる	母性のある	ふまじめな
やる気のある	もの静かな	ユーモアのある
勇敢な	やさしい	理解を示す

・ジェンダー・パーソナリティ・スケール (小出 1998)

「ジェンダー・パーソナリティ・スケールの作成」において、小出は、形容詞による性格特性語によらず、行動や意識による項目で、男性性と女性性に加え、女性のセックス・アピールの三側面からジェンダー・パ

一ツナリティ・スケールの作成を行い、信頼性・妥当性を確かめた。尺度の項目作成にあたっては、二度の予備調査を経た。最初の予備調査では、石田（1994）の男性性項目と女性性項目のワーディングを一部分かりやすく変更し、また上野（1988）や小倉（1990）を参考にして項目を加え、質問紙法で学生男女各 117 人を対象に調査を行った。続く第二回の予備調査は、主に女性のセックス・アピールに関わる項目を更に追加することで行われた。その結果、項目の抜き差しを行い、研究に用いる 43 項目を決定した（表 8 参照）。尺度の構成概念妥当性の確認においては、性役割行動とフェミニスト志向に関して、質問紙法で学生男女各 117 人を対象に調査を実施した。

表8. ジェンダー・パーソナリティ・スケール

男性性尺度の項目
・状況判断を正確に行い臨機応変に物事に対処できる
・度胸のある気の強い人間であらねばならない気がする
・車などの所有物によって自分の魅力をアピールする
・受験勉強では実力以上の学校を狙って頑張ってきた
・人に依存したり甘えたりすることが、許されない気がする
・同年代男女の平均よりも多くの年収を稼ぐ確率が高い
・包容力があって、頼もしくあらねばならない気がする
・将来、仕事中心で家事を怠ってしまうような気がする
・デートでは、リード役であらねばならない気がする
・将来、何かと過剰な責任がのしかかり荷が重いと思う
・野心や野望を持っていなければならない気がする
・筋肉が目立つような、たくましい体形でありたい
女性性尺度の項目
・人の表情から気持ちを敏感に感じとる
・普段、取るに足らないことでも友達としゃべりがちだ
・育児に向いているような気がする
・結婚するとしたら相手の方からプロポーズしてほしい
・泣いてしまうことがよくある
・占いに興味を持っている
・アイロンをかけている姿が絵になる
・恋愛には、性行為よりロマンチックな雰囲気に憧れる
・将来、あくせく働かずラクに暮らしていけると思う
・物事を考えるとき、論理より感性を働かせがちである
・普段、洋服や髪形など身だしなみに気を配っている
・結婚するとしたら相手だけで幸せになれるか決まる
・可愛らしくもありたい
・恋人には、できれば自分より背の高い人を選びたい
女性のセックス・アピール尺度の項目
・香水をつける時がよくある
・髪を長く伸ばした方が異性からのウケがいいと思う
・ファッションにスカーフを使うと魅力が高まると思う
・ピンク色の服でも抵抗なく着れる
・入念に化粧をする時がよくある
・マニキュアを塗った方が魅力が高まると思う
・ボディーラインが強調された服を着る時がよくある
・見知らぬ異性から体をジロジロ見られることがよくある
・ヘアバンドや髪止め用の髪飾りをつける時がよくある
・むだ毛(ひげを除く)の処理に気を使う時がよくある
・スリムな体形でありたい
・華やかな色や模様(がら)の服を着る時がよくある
・駅のホームなどの鏡で自分の顔をよく見がちである
・イヤリング(ピアスを除く)をつける時がよくある



ウ) 今回の分析法

イ) に挙げた 7 スケールの性役割特性を示す項目を組み合わせ、さらに追加すべきであると考えられる項目を追加したものが表 8 と表 9 である。

今回追加した項目は、男性性特性語リストにおいては「かっこいい(クール)」「(外観・身体・生殖として) 男性的な」「かっこよさを追求する」、女性性特性語リストにおいては「美意識が高い」「(外観・身体・生殖として) 女性的な」「かわいい(キュート)」「綺麗」「華やか」「家事をする」「かわいさを追求する」「美を磨く」「身だしなみに気を配る」「流行を追い求める」である。これらは、今回収集した資料に複数回登場し、明らかに男性性規範または女性性規範を示すと考えられる語であったため、より正確な分析のために追加の必要があると考える。表 9、10 中ではそれらの追加項目に\*印をつけた。また、「勉強を頑張る」については、学業に限らず何かを学ぶことを頑張るという意味で今回は用いることとする。

特性語は、伊藤(1996)の「性差観スケール」をもとに①能力、②性格、③外観・身体・生殖、④行動様式に分類した。

今回分析に使用する表 9、表 10 の特性語リストでは、男性性特性語リストと女性性特性語リストの 2 種類を用意した。中性性を示す項目を用意しなかった理由としては、まず、男性性・女性性項目につづく 3 つ目の項目に関して **Humanity** や **Androgyny**、**Neutral** など研究者により様々な扱い方があり、また男性性・女性性の両者とも高いものと両者とも低いものをどのように分類するかについても議論があることが挙げられる。

また、今回の目的は、分析対象の語りが「男らしさ」「女らしさ」とど

のような関わりを持っているのか調べることである。そのため、本研究では男性性と女性性を示す2種類の特性語リストで十分分析可能であると判断した。

表9. 男性性尺度

能力	性格	外観・身体・生殖	行動様式
指導力のある	積極的な	筋骨たくましい	リーダーとして振る舞う
決断力のある	野心のある	背が高い	自分の意見を述べる
自己主張できる	分析的な		リスクを負うことをいとわない
賢い	競争的な		信念があり守る
行動力のある	個性が強い		複雑な
視野の広い	支配的な		名誉や利益を追う
判断力のある	力強い		勉強を頑張る
臨機応変	独立心の強い		仕事を頑張る
高い収入を得ることが出来る	個人主義		家事をしない
	男らしい		恋愛や性においてリードする
	自分を頼れる		車などの所有物で魅力を示す
	自分に自信のある		泣かない
	活動的な		
	頑固な		
	厳しい		
	感情的でない		
	冒険好きな		
	進取の気性のある		
	勇気のある		
	進歩的な		
	大胆不敵な		
	荒々しい		
	他者からの賛同を必要としない		
	傷つきにくい		
	粘り強い		
	自尊的		
	重圧に強い		
	頼りがいのある		
	意志の強い		
	自主的		
	やる気のある		
	自立した		
	精神的に強い		
	精進のある		
	気の強い		
	包容力のある		
	一貫性のある		
	家庭的でない		

表10. 女性性尺度

能力	性格	外観・身体・生殖	行動様式
気遣いの出来る 他人に尽くすことが出来る	愛情豊かな 明るい	性的魅力のある 線の細かい	言葉遣いの丁寧な 人を慰める
人の助けになる 人の気持ちに気付く	純真な 思いやりのある 女らしい		おだてにのりやすい 理解力
	優しい		優しい語り口 共感する
	人の好い 子供好き		口数の多い かわいこぶった
	誠実な 恥ずかしがり		迷信を信じる 家庭志向
	繊細な あたたかい		他者からの賛同を求める よく泣く
	従順な おたやかな		安心を求める
	感動しやすい 弱い		
	魅力的な こわがりの		
	好奇心のある 夢見がち		
	依存的な 愛らしい		
	受動的 感情的		
	素直		
	親切な		
	優雅な 愛嬌のある		
	静かな		
	おしゃべりな		
	細やかな		
	気持の細かい 母性のある		
	茶目つ気のある 謙虚な		
	懐か深い しとやかな		

## 第4章 分析結果

本研究では先述のように、「ジェンダーレス男子」に関する語りを一次的語り、二次的語り、三次的語りの3類型に分け、さらに一次的語りの語り手を第一世代、第二世代、第三世代と分類した。

この章では、その分類をもとに4.1で一次的語りにおける世代別の調査結果を分析し、続く4.2では一次的語り、二次的語り、三次的語りそれぞれの調査結果を分析する。資料2に関しては、世代別の一次的語りが確認しやすくかつ二次的語りも観察されたことから、4.1と4.2の両方で扱うこととする。

### 4.1 世代別にみる「ジェンダーレス男子」本人の語り

ここではまず、資料1、2を分析し、一次的語りがどのように行われているのか、世代間でのそれぞれの一次的語りにどのような特徴があるのかという2点をみていく。

#### 4.1.1 資料1：『ジェンダーレス男子。』（2015）

この資料は、2015年にジェンダーレス男子名義で双葉社から出版された書籍である。内容は、「ジェンダーレス男子」のファッションや美容、生き方などを紹介したスタイルブックであり、「ジェンダーレス男子」のプロデューサーである丸本貴司とカメラマンの米原康正による対談も含まれている。

一次的語りの語り手は、第一世代としてこんどうようぢ、丸本貴司、第二世代としてとまん、第三世代としてほりえりく、かじゅ魔、たくぼん、木津つばさであった。

分析結果は表11、12の通りである。表中では世代別に語りの分析結

果を記している。また、特性語（またはそれと同義であると考えられる表現）の登場頻度が3回以上の場合「a」、1～2回以上場合は「b」と表記した。また、使用を強く否定する語り（例えば「男らしさや女らしさではなく自分らしさ」という語りなど）があった特性語に関しては「c」と記した。

今回頻度3を一つの区切りとしたのは、頻度3以上になると特定の語り手により繰り返し用いられているかまたは複数の語り手によって用いられているような、強調の傾向がみられたためである。





っこいい (クール)」「リスクを負うことをいとわない」であり、第三世代にはこれらの特性語が観察できなかった。反対に、第三世代にのみ確認されたのが「恋愛や性においてリードする (積極的)」であった。また、「指導力のある」「意志の強い」「自尊的」「自分に自信のある」「自分を頼れる」「冒険好きな」「自分の意見を述べる」は、第一世代にのみ観察された。

女性性特性語に関しては、全世代の「ジェンダーレス男子」の語りにおいて「おしゃれな」「かわいい (キュート)」「綺麗」「美を磨く」「身だしなみに気を付ける」という特性語が肯定的に使用され、「女らしい」「受動的」の否定が行われていた。

「女性的な」と「茶目っ気のある」は第一・第三世代において、「おしゃれな」は第二・第三世代において観察された。また、「家事をする」は第二世代のみに、「感動しやすい」「よく泣く」は第三世代のみにみられた。

そして、第一世代が「他者からの賛同をもとめる」「流行を追い求める」を否定しているのに対し、第三世代は「流行を追い求める」を多用していた。

#### ・考察

まず、全世代の語りで共通して観察された両特性語は、その多くが「ジェンダーレス男子」特有の特徴を示していると考えられるものであり、自分らしさを貫くという彼らの生き方に沿ったものであった。「かわいい (キュート)」は一見典型的な女性性特性語であるが、これは「かっこいい (クール)」と共にあくまでファッションに関する語りの中でみられ、ほとんどの場合において、「クールだけどキュート」のように男性性特性語と女性性特性語を組み合わせることで中性性を示すために用いられていた。



「女性的な」に関しても同様の使用のされ方であった。

全世代の語りで否定されていた特性語（「男らしい」「男性的」「女らしい」「受動的」）に関しても、「ジェンダーレス男子」特有の信念に沿ったものであった。

第一・第二世代の語りで用いられていた「自己主張できる」「一貫性のある」「個人主義」「他者からの賛同を必要としない」「独立心の強い」「リーダーとして振る舞う」「かっこいい（クール）」に関しては、彼らが「ジェンダーレス男子」の原点であり代表例であるという意識の表れと考えられる。同様に、第一世代のみにみられた特性語（「指導力のある」「意志の強い」「自尊的」「自分に自信のある」「自分を頼れる」「冒険好きな」「自分の意見を述べる」）は、「ジェンダーレス男子」として自分らしさを大事にするという精神と、モデルとして常に勉強しプロであらねばならないという考え方に基づいていると考えられる。このような特性語が第三世代においては観察されなかったということは、「ジェンダーレス男子」としての自覚や責任が他の世代に比べ希薄である可能性が考えられる。

このような第一・第二世代と第三世代の間でのズレは、他の特性語でもみてとれる。「流行を追い求める」については、第三世代の語りにおいて非常に多くみられた一方で、第一世代は「人のマネをしない」「トレンドをおさえつつも自分らしさを大事にしなければならない」「ファッションはワンシーズン限りにならないように」などと発言しており、「他者からの賛同を求める」「流行を追い求める」という特性語に否定的な語りを行っていた。さらに、「美を磨く」の中でも、体型に関しては太らないようにする努力をしているのは第三世代の「ジェンダーレス男子」であり、第一世代はむしろより良い体型のために「太る」努力をしていると発言

していた。これは、個人の体質が影響している可能性もあるが、一次的語り、特に第一世代においては痩身=美という考え方は無いようである。このように、世代によって語りに大きな差異が見られた。

第一世代が使用した「自尊的」「自分に自信のある」という特性語に関しては、美を磨くことで元来抱えていたコンプレックスを克服したことによりもたらされたものであり、男性性の強調というよりむしろ「ジェンダーレス男子」として生きることで男性性規範を乗り越えたといえる。

「感動しやすい」「よく泣く」「おしゃべりな」という女性性特性語は、自身を形容する言葉として抵抗なく用いられており、「女らしさ」ではなく自分らしさを表現する用途であると考えられる。

以上より、『ジェンダーレス男子。』の中での一次的語りでは、男性性・女性性特性語は用いられているものの、その多くが自分らしさを貫くという生き方に沿ったものか、または両特性語を組み合わせる中性を示す場面においてであり、「男らしさ」や「女らしさ」を示す特性語を意識的に避けようとする傾向が見られた。実際に、一次的語り全体において「男らしく」「女らしく」「受動的」「人と群れる」「人のマネをする」ということに関する強い否定が行われており、「自由」「自分らしさ」「中性的」を重要視する語りが幾度も観察された。

また、第一・第二世代は他者の賛同よりも自分らしさを貫くという「ジェンダーレス男子」としての生き方を重視するのに対し、第三世代は流行をおいかけ他者からの視線を意識するという反対の傾向がみられた。このような語りの差異は恋愛や性に関しても現れており、一次的語りの中でも世代によって語りの違いが存在するということが分かった。

#### 4.1.2 資料 2 (1) : 『ジェンダーレス Style—オシャレ男子—』 (2016)

この資料は、2016年に株式会社インテルフィンから出版された「ジェンダーレス男子」の最新グラビア&ビューティーマガジンというコンセプトの書籍である。内容構成は、8人の「ジェンダーレス男子」モデルのグラビアとインタビュー、一般女性への「ジェンダーレス男子」に対するイメージを尋ねるインタビュー、一般の「ジェンダーレス男子」のスナップとインタビューとなっている。当該資料内では、一次的語りと二次的語りが観察されたが、ここではまず一次的語りのみの分析を行い、二次的語りを含めた分析は4.2.1で行うこととする。

語り手は、第一世代がこんどうようぢ、第二世代がとまん、第三世代がほりえりく、れい なかやま。、UsukeDevil、さくぱん、Twins☆寛・HIRO・&義・yoshi、一般の「ジェンダーレス男子」であった。

結果は以下の通りである。表13と表14では、先の表と同様、世代別に語りの分析結果を記し、特性語（またはそれと同義であると考えられる表現）の登場頻度が3回以上の場合「a」、1～2回以上場合は「b」と表記した。また、使用を強く否定する語りがあった特性語に関しては「c」と記した。

表13 『ジェネダーレスScale』における世代別一次的語り(男性性特性格)

能力	第一世代	第二世代	第三世代	性格	第一世代	第二世代	第三世代	外観・身体・生種	第一世代	第二世代	第三世代	行動様式	第一世代	第二世代	第三世代
賢い				荒々しい				男性的な かっこいい(クール)				信念があり守る	b	b	b
決断力のある				意気の強い				筋骨たたくましい				家事に積極的でない			
行動力のある				貫意のある	b	b		背が高い				重なることを追求する			
自己主張できる				活らしい	b,c	b						重なることを追求する 重なるものを示す			
指導力のある				活動的な								仕事を積極的 自分の意見を述べる	a	a	a
視野の広い				家庭的でない								複雑な 泣かない	b	b	b
高い収入を得ることが出来る				感情的でない								勉強を頑張る 名誉や利益を追求 リーダーとして振る舞う			
判断力のある				響つきにくい								リスクを負うことをいとわない			
臨機応変				気の強い								恋愛や性においてリードする(積極的)			a
				厳しい											
				競争的な											
				個人在義											
				個性が強い											
				自主的											
				支那的な											
				自分に自信のある	c	a									
				自分を頼れる											
				重圧に強い											
				自立した											
				進取の気性のある											
				進歩的な											
				精神的に強い											
				積極的な											
				他者からの賛同を必要としない											
				粘り強いのある											
				力強い											
				度胸のある											
				独立心の強い											
				粘り強い											
				分析的な											
				冒険好きな											
				包容力のある											
				野心のある											
				やる気のある											
				勇気のある											

・[a]:頻度3以上、[b]:頻度1~2、[c]:否定。

表14 『ジェンダーレスSwire』における世代別一次的語り(女性性特性語)

能力	第一世代	第二世代	第三世代	性格	第一世代	第二世代	第三世代	外観・身体・生殖	第一世代	第二世代	第三世代	行動様式	第一世代	第二世代	第三世代	
													第一世代	第二世代	第三世代	
愛嬌のある 愛情豊かな 愛らしい 明るい あたたかい 依存的な おしゃやいな おだやかな 思いやりのある やさしい 感性的 感動しやさい 気持ちの細かい 謙虚な 好奇心のある 子供好き 細やかな こわまりの 静かな しとやかな 従順な 受動的な 純真な 親切な 素直な 誠実な 繊細な 茶目つ気のある 恥ずかしがり 優み深い 美意識が高い 人の好い 母性的な 魅力的な 優しい 優雅な 夢見がち 明るい								女性的な かわいい(キュート)								
他人に尽くすことが出来る 人の気持ちに気付く 人の助けになる								かわいさを感じる おだてごのりやさい 家事をする 家庭志向 かわいさを追求する 共感する おしゃべりな 言葉遣いの丁寧な 他者からの賛同を求める 人を認める 美を置く 身だしなみに気を配る 迷信を信じる 優しい語り口 よく泣く 理解力 流行を追い求める								

・ 結果

男性性特性語に関して、全世代の一次的語りにおいて共通にみられたのは、「一貫性がある」「信念があり守る」であった。また、第一・第二世代にのみ特徴的であったのは「仕事を頑張る」「自分の意見を述べる」「リーダーとして振る舞う」であり、第三世代による語りにはそれらの特性語はみられなかった。反対に、「かっこいい(クール)」「恋愛や性に対してリードする(積極的)」という特性語の強調がみられたのは第三世代においてのみであり、第一・第二世代の語りにおいてはみられなかつ

た。「高い収入を得ることが出来る」という特性語に関しては、第一世代のみが否定的語りをを行った。また、「自分に自信のある」という特性語では、第一世代は否定をし、第二世代は使用をせず、第三世代は幾度も使用するという結果となった。「男らしい」に関してもこれと同様の現象が起きているが、第一世代においては「男らしさ」を拒否する語りの一方で「男らしさ」を示す語りも行うという、矛盾した場面があった。

次に、女性性特性語に関してみていく。全世代の一次的語りに共通して見られたのは、「おしゃれな」「美意識が高い」「家事をする」「美を磨く」「身だしなみに気を配る」という特性語であった。また、「かわいさを追求する」という特性語は、第三世代で頻繁に観察されたが、第一世代は中性性を重視しており、第二世代は「かわいい一辺倒ではつまらない」と明言するなど、第一・第二世代と第三世代の間で語りに大きな違いがみられた。加えて、「流行を追い求める」という特性語も第三世代においては見られたが、第一・第二世代においては見られなかった。

#### ・考察

上記の結果は、類似の特徴が先に分析した資料1においても観察されている。例えば、全世代に共通であった「一貫性がある」「信念があり守る」という特性語は、自分らしさを重要視する「ジェンダーレス男子」の特徴が表れていると言えよう。また、第一・第二世代にのみ特徴的であった「仕事を頑張る」「自分の意見を述べる」「リーダーとして振る舞う」という特性語は、自身が「ジェンダーレス男子」の中心的存在であるという第一・第二世代の意識が影響していると考えられる。そして、第三世代にのみ「恋愛や性に対してリードする（積極的）」「かわいさを追求する」「流行を追い求める」という特性語が現れたことは、「ジェン

「ジェンダーレス男子」現象の中心から周辺へとむかうにつれて、「男らしさ」や「女らしさ」に対する語り手の抵抗感が弱い傾向にあるということを示しているのではないかと考えられる。

また、「自分に自信がある」という特性語に関しては、第一世代は否定する語りを行っていた一方で、第三世代においては肯定する語りがみられた。第一世代のこんどうようちは、「僕なんか」 という発言を度々しており、自分に対して昔からコンプレックスがあるということと、美容やメイクによって自分に自信を持とうとしているという内容の語りを行っていた。このようなコンプレックスは、とまんやほりえりくなど他の「ジェンダーレス男子」にも特徴的であり、『ジェンダーレス男子。』の中ではコンプレックスこそが「ジェンダーレス男子」の美を磨く熱量を生んできたとされている。

しかし、真逆の語りを行っていたのが、第三世代の Twins☆寛-HIRO-&義-yoshi- という双子の「ジェンダーレス男子」モデルである。彼らは「自分の好きなところは全て！」「嫌いなところは無い」と述べており、「恋愛や性においてリードする（積極的）」という男性性特性語を使用しているのも彼らであった。なぜ、『ジェンダーレス男子。』では存在しなかったこのような語りの食い違いが第一世代と第三世代の間で生まれたのだろうか。

その理由として考えられるのは、2015年のメディアの介入である。2012年に誕生した「ジェンダーレス男子」は、SNSを中心とした「ジェンダーレス男子」本人による語りによってファンや次世代の「ジェンダーレス男子」達を生み出してきた。その段階では、こんどうようちやとまんのような第一・第二世代の一次的語りが大きな位置を占め、「ジェンダーレス男子」現象はそのファッションだけでなく、「男らしさ」や「女

らしさ」から自由になって自分らしさを大切にするという新しい生き方として広がるのが可能であった。しかし、2015年、テレビや雑誌などで「ジェンダーレス男子」現象が大きく取り上げられるようになると、メディアを介して「ジェンダーレス男子」を認知する人々が急増する（メディアにおける語りに関しては、後に分析を行う）。このように、メディアによって切り取られ編集された一次的語りや二次的語りに色濃く影響を受けて生まれたのが、第三世代の「ジェンダーレス男子」達である。そのような背景をふまえると、第三世代が、第一・第二世代と異なり、「男らしさ」に寄った形の語りを行っているのも当然と言えるであろう。

そして、さらにこの資料で特徴的であったのは、「男らしい」という男性性特性語と一次的語りの関係性である。「ジェンダーレス男子」モデルに対して行われたインタビューの中での「主張したいことを一言！」という問いに対し、8人中3人が「意外と男っぽいとよく言われます」「めっちゃ男。(なかみ)」「男だよ！」と回答し、内面の「男らしさ」やセクシュアリティが男であるということを強調したのである。さらには、「意外と男っぽいとよく言われます」と答えたのは、「男らしさ」に縛られることの否定を行ってきたはずの「ジェンダーレス男子」第一世代のこんどうようぢであった。この一見矛盾しているとも思われる語りは、一体どのように考えるべきだろうか。

この語りの矛盾が起きた原因を考える上で、注目すべき発言がこんどうようぢのインタビュー内にあった。「ジェンダーレス男子」と呼ばれることに関して、こんどうようぢは以下のように述べている。

自分が好きなファッションをしてきただけなのにそうカテゴライズしてもらえるのは嬉しいんですけど、世間の評価はどうなんだ



ろうと感じた時期はありますよ。レディースの服を着て、メイクもネイルもするから『オカマじゃないの！？』と言われることもあるし。自分の認知度が低いからそんな風に言われちゃうんだろうな、と（『ジェンダーレス Style—オシャレ男子—』）

「ジェンダーレス男子」が様々なメディアに取り上げられ始めたのが2015年、この冊子が発刊されたのは2016年であった。そのことをふまえると、このインタビューが行われた当時は、まさしくこんどうようち達「ジェンダーレス男子」が世間からの様々な評価にさらされていた時期であったことが推察される。その状況下では、「ジェンダーレス男子」という生き方をどのように人々に認めてもらうかということは、当時の「ジェンダーレス男子」達にとっては非常に大きな課題であったと考えられる。そのため、ジェンダーを脱ぎ捨てたはずの彼らが「男性性」や「男であること」を強調するという一見矛盾した語りは、「オネエ」「女々しい」「気持ち悪い」「女装」などという世間の無理解から身を守り自分らしさを認めてもらうための手段だったのではないだろうか。

実際に、こんどうようちの「意外と男っぽいとよく言われます」という発言は、こんどうようちが自身のことを男っぽいと評価しているのではなく他者からの評価を述べるにとどまっている。このように、「男らしさ」や「女らしさ」ではなく自分らしさを大事にするという信念は変わってはいなくとも、より多くの人々の視線を意識せざるをえなくなったことにより、一次的語りと男性性特性語の関係性は変化を求められたと考えられる。これは、『ジェンダーレス男子。』以降の大きな変化の一つであると言えるだろう。

### 4.1.3 一次的語りの考察

ここでは、資料 1、2 の分析結果を受けて見えてきたことについて考察したい。

まず、資料 1、2 には全世代の語りで共通して観察された特性語（「一貫性のある」「信念があり守る」「おしゃれな」「美意識が高い」「美を磨く」など）があった。この特性語が繰り返し観察された語りは、「男らしさ」や「女らしさ」というよりむしろ「ジェンダーレス男子」らしさの表出であると考えられる。

次に、一次的語りを世代別に調べたことで見えてきたことがある。資料 1、2 のどちらでも観察されたのは、世代が若くなるにつれて「ジェンダーレス男子」の核が欠落していく過程である。第一世代が最も大切にしていたこと、それはジェンダーに縛られず自分らしさを貫くという「ジェンダーレス男子」の生き方であった。しかし、第二世代、第三世代と語り手が変わるにつれてこのような語りは見られなくなり、代わりにかわいさを追求したり流行を追いかけるというような「ジェンダーレス男子」のファッション性を重視した語りへと変化していた。

さらに、資料 1 と資料 2 の間でもその特徴に違いがみられた。資料 1 では「男らしい」「男性的な」「女らしい」「受動的」という特性語に対し全世代が否定を行っていたが、資料 2 では全世代とも否定を行った特性語はみられないなど、特性語に対する強い否定の減少が確認された。また、資料 1 では比較的緩やかであった世代ごとの語りの差異が、資料 2 では明確に表れるようになっていた。例えば、資料 1 では世代間での語りに多少違いはあれど真逆の特徴はほぼ観察されなかったのに対し、資料 2 では複数の特性語に関して第一世代と第三世代が正反対の用い方をしている場面がみられた。

また、セクシュアリティが男であるということや内面の男性性を強調する場面が資料 2 ではみられるなど、「男らしさ」から解放されたはずの「ジェンダーレス男子」の中で語りにゆらぎが生じていると思われる箇所もあった。

なぜこのような違いが資料 1 と資料 2 の間に生じたのだろうか。

資料 1 と資料 2 の間の最も注目すべき違いは、その制作時期が 2015 年のメディアによる介入の前か後かという点である。このことは、当該資料内での語り手の構成や、語りの内容において大きな影響を及ぼしていたと考えられる。では実際に、メディアによる影響がどのようなものであったのかについて、4.2 でみていこう。

## 4.2 階層別にみる「ジェンダーレス男子」現象の語り

ここでは、4.1 と同様の手法により収集した資料の分析を行い、一次的語り～三次的語りがどのように行われているか、それぞれの語りの間に差異や特徴はあるのかという 2 点をみていく。

### 4.2.1 資料 2 (2) : 『ジェンダーレス Style—オシャレ男子—』 (2016)

ここでは 4.1.2 でも扱った資料 2 について、今度は一次的語りと二次的語りを比較する形で分析していく。一次的語りの分析結果については先に記述したとおりである。

#### ・二次的語りに関して

語り手は、この冊子の編集者やインタビュアー、街頭インタビューに答えた一般女性であった。表 15、16 中では、先の表と同様、特性語（またはそれと同義であると考えられる表現）の登場頻度が 3 回以上の場合「a」、1～2 回以上場合は「b」と表記した。また、使用を強く否定する

語りがあった特性語に関しては「c」と記した。

この資料2内では、一次的語りに比べ二次的語りの割合は少なかったため、出現した特性語の種類やその登場頻度も必然的に一次的語りと比較して少なくなっている。

表15. 『エンターレスSky』における二次的語り(男性性特性語)

能力	二次的語り	性格	二次的語り	外観・身体・生殖	二次的語り	行動様式	二次的語り
賢い		荒々しい		男性的な		信念があり守る	
決断力のある		意志の強い		かっこいい(クール)	b	家事に積極的でない	
行動力のある		一貫性のある		筋骨たくましい		かっこよさを追求する	
自己主張できる		男らしい	b,c	背が高い		重などの所有物で暴力を示す	
指導力のある		活動的な				仕事を頑張る	b
視野の広い		家庭的でない				自分の意見を述べる	
高い収入を得ることが出来る		頑固な				複雑な	
判断力のある		感情的でない				泣かない	
臨機応変		傷つきにくい				勉強を頑張る	
		気の強い				名誉や利益を道う	
		厳しい				リーダーとして振る舞う	
		競争的な				リスクを負うことをいとわない	
		個人主義	b			恋愛や性においてリードする(積極的)	
		個性が強い					
		自主的					
		自尊的					
		支配的な					
		自分に自信のある					
		自分を頼れる					
		重圧に強い					
		自立した					
		進取の気性のある					
		進歩的な					
		精神的に強い					
		積極的な					
		大胆不敵な					
		他者からの賛同を必要としない					
		頼りがいのある					
		力強い					
		度胸のある					
		独立心の強い					
		粘り強い					
		分析的な					
		冒険好きな					
		包容力のある					
		野心のある					
		やる気のある					
		鼻気のある					



両方が観察されたことである。そして、「男らしい」という特性語に関しては、その語を使用している語りも使用を拒否している語りも「ジェンダーレス男子」に対しての否定的意味合いは持たなかった一方で、「女性的」という特性語は「ジェンダーレス男子」に対しての否定的意味合いを持つ語り（「女の子みたい……」など）の時に用いられていた。

#### ・考察

では以上をふまえ、一次的語りと二次的語りを比較してどのようなことがいえるだろうか。

まず、一次的語りでは確認された「一貫性のある」「信念があり守る」という「ジェンダーレス男子」の内面に特有の特性語は、二次的語りでは確認することが出来なかった。そのかわり、一次的語りでは避けられるような「男らしい」「女性的な」「かわいい（キュート）」「綺麗」「線の細い」という外見に関する特性語が二次的語りでは幾度も登場した。

このことは、語り手が「ジェンダーレス男子」本人から「ジェンダーレス男子」以外に移行する中で「ジェンダーレス男子」に関する語りが変容していることを明確に示している。また、二次的語りにおいて「女性的な」という言葉がネガティブな文脈において使用されていた場面に関しては、一部の二次的語りに存在する、「ジェンダーレス男子」に対する男性性期待の表出であるだろう。

#### 4.2.2 資料3：ELLE OLINE（2017.05.30）

この資料は、ELLE ONLINE における「男らしさって何？なぜ日本社会に“ジェンダーレス男子”は必要なのか」という記事である。内容は「ジェンダーレス男子」モデルのこんどうようぢ、UsukeDevil、Yappi! へのインタビューとなっている。

・一次的語りについて

語り手は、第一世代のこんどうようち、第三世代の UsukeDevil と Yappi!である。

一次的語りにおいては、男性性特性語は「個性が強い」「勉強を頑張る」が確認され、「個人主義」「男らしい」「自分に自信のある」「恋愛や性においてリードする（積極的である）」という特性語は否定されていた。また、女性性特性語は「おしゃれな」のみであり、「女らしい」という特性語は強く否定されていた。

・二次的語りについて

語り手はインタビュアーと記事のライターである。

二次的語りにおいては、男性性特性語は「個性が強い」「男らしい」「カッコいい（クール）」「信念があり守る」「勉強を頑張る」「仕事を頑張る」が確認され、「自分に自信のある」「筋骨たくましい」「恋愛や性においてリードする」が否定されていた。また、女性性特性語は「おしゃれな」「線の細い」「綺麗」「(外見が) 女性的な」「身だしなみに気を配る」「美を磨く」が観察され、「(内面が) 女らしい」は非常に強く否定されていた。

・考察

今回の一次的語りと二次的語りの間では、一次的語りと二次的語りがある共通の特性語を語りにもっている場面がある一方で、相反する特徴を見せるということはなかったものの、二次的語りでは「男らしい」「カッコいい（クール）」「線の細い」「綺麗」「女性的」というようは一次的語りにおいては避けられたり否定されている特性語が観察された。また、外形に関する語りと内面に関する語りでそれぞれを分類すると、両特性語と中性性を強調する言葉の使用のされ方は大きく異なっていることが分

かった。

一次的語りにおいては、観察された両特性語は外形・内面どちらに関する語りにおいても出現の仕方にほとんど偏りが無い。しかし、二次的語りでは、内面に関する語りに関しては男性性特性語が、外形に関しては女性性特性語や中性性を強調する言葉が多く用いられていた（内面に関しては男性性特性語 9 件、女性性特性語 6 件、中性性を示す記述 2 件／外形に関しては男性性特性語 3 件、女性性特性語 22 件、中性性特性語 10 件）。

さらに、二次的語りの内容自体が内面よりも外形に関するものが非常に多く、「ジェンダーレス男子」現象を新しい生き方としてではなくファッションのジャンルの一つとして捉えて紹介しているようである。例えば、「中性的な部分はあるまで外見に依拠しているところが、従来のゲイカルチャーや女装男子などとは一線を画す特徴」「男臭くない、細い身体だからこそ似合うファッションや、女性的な顔だからこそ映えるメイクは徐々に市民権を獲得」「身体は男性、中身も男性、ファッションのみが男女の壁を悠々と超える男子」「ジェンダーレス男子に特徴的なのは、中性的な独特の雰囲気というのがある程度、外見的なスタイルに限定されていること」「ファッションが好きで、それを発信するのが好きな若い男子」「ジェンダーを超えた彼らとの付き合いは、女の子同士のような共通の話題や気軽さと、内面にけなげな男気とのいいとこ取り」などの二次的語りは、「ジェンダーレス男子」のファッション性を強調し、内面における性役割規範からの解放を認めていないと考えられる。

以上のように、一次的語りに比べて二次的語りは男性性・女性性特性語の使用が増え、さらに「ジェンダーレス男子」の内面に関しては男性性特性語を、外形に関しては女性性特性語や中性性を示す言葉が多く用



いられるなど重大な差異があった。

#### 4.2.3 資料4：読モ Boys&Girls におけるインタビュー

##### 1) 「ほりえりく×こんどうようちインタビュー」

内容は互いのファッションや仕事についてであった。

- ・一次的語りについて

語り手は、こんどうようち、ほりえりくであった。

男性性特性語としては「仕事を頑張る」「個性が強い」「信念があり守る」、女性性特性語としては「かわいい」が観察された。「かわいい」については、ほりえりくらしいファッションについての言及で登場している。

- ・二次的語りについて

語り手はインタビュアーであるが、ほぼこんどうようちとほりえりくの対談形式となっているため、ほとんど発言がなく、両特性語もなかった。

- ・考察

特性語はわずかながら見られたものの、それらは他の場面でも「ジェンダーレス男子」が自分らしさを形容する際に用いる言葉であった。

##### 2) 「吉次玲奈×こんどうようちインタビュー」

話題は互いのプライベートについてであった。

- ・一次的語りについて

語り手はこんどうようちであった。この記事の中では両特性語とも観察されなかった。

- ・二次的語りについて

語り手は吉次玲奈とインタビュアーであった。こんどうようちの服装に関して、吉次玲奈により、男性性特性語として「カッコいい」が用いられた。ほぼ対談形式のため、インタビュアーの発言はほぼなかった。

- ・考察

吉次玲奈がこんどうようちの服装を「メンズがセットアップ着てるの好きです。カチッとしてカッコいいと思う。」と発言したのに対し、こんどうようちは「コーデ考えるのめんどくさいとき、セットアップに頼っちゃうところはあるかも。」と返答している。このことから、男性性特性語の有無に関して一次的語りと二次的語りの間で差異が見られた。

### 3) 「古川優香×こんどうようちインタビュー」

内容としては、古川優香が BG に入ったきっかけなどをこんどうようちが聞く形の対談となっていた。

- ・一次的語りについて

語り手はこんどうようちで、両特性語とも観察されなかった。

- ・二次的語りについて

語り手は、古川優香とインタビュアーであった。古川優香により、こんどうようちのブランド「DING」のファッションショーに出演していたモデルに関し、「カッコいい」「筋骨たくましい」という男性性特性語を使用する場面がみられた。

- ・考察

二次的語りから、こんどうようちのブランドが、彼のプロデュースの意図を離れて男性性特性語を用いた語られ方をしていることが分かる。

### 4) 「こんどうようち×uyu インタビュー」

内容は、ふたりの出会いとファッションと夏の予定の話であった。

- ・一次的語りについて

語り手はこんどうようちであり、両特性語とも観察されなかった。

- ・二次的語りについて

語り手は、uyu とインタビュアーであった。uyu がこんどうようちのブランドに対し、「かわいい」という女性性特性語を使用する場面がみられた。

- ・考察

こんどうようちが自身のブランドに関して「ジェンダーレス系のブランドとして、男女関係なくみんなが着られるものとか、あとはカジュアルなアイテムを展開していく」と話しているのに対し、uyu は「絶対めっちゃ可愛い気がする！」と述べており、一次的語りから二次的語りに移る際に特性語が付与されていることが見て取れる。

## 5) 「座談会を緊急開催！読モ達のイマドキな香水観」

内容は、「ジェンダーレス男子」と女性モデルの香水の使い方や、新発売の香水についての感想・コマーシャルであった。

- ・一次的語りについて

語り手は、時人、ほりえりくであり、両特性語とも観察されなかった。

- ・二次的語りについて

語り手は、吉次玲奈、さいとうあかり、インタビュアーであった。男性の香水に関する会話の中で、「女らしい」「愛らしい」「かわいこぶった」ものはだめ、という発言が見られた。そこから、男性が特性語にあるような女性性を持つことを否定していると考えられる。

- ・考察

「ジェンダーレス男子」の一次的語りでは、男性がつける香水について両特性語が見られなかったのに対し、女性モデルによる二次的語りでは男性が「女らしさ」を持つことの否定が行われており、両者の間での語りに差異が見られた。

以上 6 つの対談において、一次的語りの語り手である「ジェンダーレス男子」同士の会話の中では、男性性・女性性特性語とも出現頻度は極めて低くなった。また、対談相手が「ジェンダーレス男子」ではなく二次的語りの語り手である場合、二次的語りにおいては度々特性語が使用されるが、一次的語りではむしろ両特性語とも避けるような傾向があり、語りにズレが生じていた。

#### 4.2.4 資料 5 : Ranzuki (2015 年 12 月号) に関する一連の出来事

Ranzuki はぶんか社が発行していた女子高生向け月刊ファッション雑誌である。今回の資料は、2015 年 12 月号における「ジェンダーレス男子、ようちくんととまんくんが OUT or SAFE とぶった斬る！ え！？その服でデートに来るの？マジ！？」という記事を取りあげる。

この企画は、「男のコとデート行く服」というコンセプトに沿って Ranzuki 専属モデル 8 人と読者モデル 16 人がコーディネートを組み、それをこんどうようちととまんが評価するという内容であった。しかし、紙面上では、二人が 24 コーディネート中 22 コーディネートに対して否定的なコメントをしていたため、読者からは批判が殺到しネット上で炎上騒動に発展、こんどうようちととまんは後日 Twitter 上で謝罪を行った。

この一連の出来事で注目すべき点は、一次的語り手である「ジェンダ

一レス男子」本人と二次的語りの語り手である雑誌編集者、そして三次的語りの語り手である読者間における「この企画内でのこんどうようちととまんの立ち位置をどう捉えるか」についての認識と語りのズレである。この点について、以下ではそれぞれの語りがどのように行われているか分析する。

- ・一次的語りについて

語り手は、こんどうようちととまんであった。

彼らは、企画内での 77 コメントのうち、59 コメントは「ジェンダーレス男子」としての目線で、15 コメントはデートの相手としての目線でコーディネートを評価している。この記事でのコーディネートに対する二人の主張は一貫しており、「コンセプトに合っていないファッション」「自分の魅力を分かっていない」「自分らしさが無く流行にのっているだけ」「最低限の身だしなみがなっていない」というものであった。また、いくつかのコーディネートに対しては「露出度高くない?」「男に襲ってくださいって言ってるよう」「ぶりってる」「アイドルですか!？」という批判をし、女性性特性語である「性的魅力のある」や「かわいこぶった」を否定的に用いていた。

また、一連の炎上騒動に対する謝罪の中では、彼らは以下のように述べている。

雑誌の件、不快にさせてしまい申し訳ありませんでした。こんなに酷いこと言ってないのにと感じてたんですが見たのが発売後だししょうがないと思い、何も言わずにいました。元々企画が辛口評価なので編集さんも面白おかしくしようと書いたのだと思います。申し訳ありませんでした。(こんどうようち Twitter より)

雑誌の件。書かれてなかったですが、企画の取材時「普段僕等自身、自分が着たい服を着させて頂いているのでみなさんも何を着てもいいし、好きな服を着るのが一番良いと思います。」と言うことも話させて頂いてました。言い方なども編集さんも書き方を面白くなるよう変えてる部分もあると感じました。(とまん Twitter より)

このことから、本人たちは自身の一次的語りとは異なるかたちで紙面において描かれたと感じていることが分かる。

以上より、一次的語りの段階では、彼らは男としてというよりもむしろ自分らしく生きる「ジェンダーレス男子」としての立場から、相手にも「女らしさ」ではなく自分らしさを期待してモデル達の服装を評価したと考えられる。紙面での彼らのコメントも、編集者により脚色が加わっていると考えられるものの、基本的な主張は「男らしさ」「女らしさ」よりも自分らしさを重視するものであった。

・二次的語りについて

語り手はこの記事の作成者である。

企画を「その服でデートに“来る”の？」と題していることや、こんどうようちととまん「ジェンダーレス男子代表」という肩書きを付けていることから、彼らに対してデートの待ち合わせ相手としての目線と、おしゃれな男子としての「ジェンダーレス男子」の目線を期待していることが分かる。

また、記事を面白くするためにこんどうようちととまんの発言を実際よりも辛辣なものに脚色したとするならば、これはバラエティ番組などで面白さを出すために用いられる「オネエの辛口発言」というステレオ

タイプのメディア表現に類似するものがあると考えられる。もちろんこの記事の中に「ジェンダーレス男子」を「オネエ」として扱う直接的な表現はないが、「同性のような立場から女性のファッションを細かく辛口に批評する様を面白おかしく描く」という手法を「ジェンダーレス男子」の語り方に用いていることは見過ごしてはならないだろう。

#### ・三次的語りについて

語り手は、「ジェンダーレス男子」と雑誌製作者以外の人々である。ここでは「ジェンダーレス男子」に対する役割規範をみていこう。

発売されたこの雑誌を読んで、読者の女性たちからはこんどうようちととまんに対して非常に多くの批判が湧きあがった。炎上の大きなきっかけとなったのは **Twitter** ユーザーによる投稿であり、なかでも「女の子だって男の子のためにちゃんと考えて服選んだりしてるのにこれはさすがにひどくない??」というツイートは9万回以上シェアされた。このような批判は大半を占め、この記事の中でのコーディネートの良い悪いや、こんどうようち達の指摘内容が正しいか正しくないかについての議論はほとんどみられなかった。

このことから、読者としてこの記事に不快感を持った女性たちはこんどうようちととまんに対して、ファッションアイコンである「ジェンダーレス男子」の目線ではなく、男性として女性を見る目線を期待していたことが分かる。

#### ・考察

以上より、**Ranzuki**2015年12月号のこの記事をめぐる一連の出来事において、「ジェンダーレス男子」と雑誌編集者、読者の間での「ジェンダーレス男子」に関する認識と語りには大きな食い違いが観察された。

一次的語りでは、自分らしさを重視し、相手にもそれを求めるような

傾向があったのに対し、二次的語りでは一次的語りとステレオタイプのな“笑い”の関係が見受けられた。また、三次的語りでは「ジェンダーレス男子」に対する男性性期待が示され、「ジェンダーレス男子」の本質に関する語りは欠如していた。

#### 4.2.5 資料6 : CLASSY (2016年8月号)

CLASSYは、光文社から刊行されている20代後半から30代の働く女性を主なターゲットとしたファッション雑誌である。今回取り上げるのは、2016年8月号の中の「女顔負けの努力と美肌が自慢です 見習いたいのは“美意識高い系男子”」という記事である。

この記事は、SHOUTA、ゆうたろう、藤田富、こんどうようぢ、とまんの5人の“美意識高い系男子”のこだわりの美容法を学び、その裏にあるストイックな努力と美を楽しんで追求する前向きな気持ちを知ろうという内容であった。記事の中では「ジェンダーレス男子」という単語は登場しないが、記事に登場する5人はいずれも「ジェンダーレス男子」として名乗っている、または他のメディア等で「ジェンダーレス男子」として扱われているため、彼らの語りを一次的語りとして分析する。また、二次的語りの語り手はこの記事の作成者とする。

##### ・一次的語りについて

語り手は、SHOUTA、ゆうたろう、藤田富、こんどうようぢ、とまんである。

一次的語りの中で確認された男性性特性語は「かっこいい(クール)」「勉強を頑張る」、女性性特性語は「家事をする」「他者からの賛同を求める」「美を磨く」が挙げられる。「かっこいい(クール)」に関しては、美白=かっこよさという考え方のもと用いられていた。また、「家事をす



る」についても、体型維持や美を維持するために自炊をするというように用いられていた。このように、美を磨くことに関する語りに置いては女性性特性語だけでなく男性性特性語も使用されており、これらの特性語が「男らしさ」「女らしさ」から離れた文脈で用いられていると言える。

#### ・二次的語りについて

語り手は、この記事の作成者である。確認された男性性特性語としては「個性が強い」「厳しい（ストイック）」「信念があり守る」「勉強を頑張る」、女性性特性語としては「線の細い」「華やか」「美を磨く」「おしゃれな」が挙げられる。

#### ・考察

この記事においては、具体的な美容法を紹介するような情報としての文章が多くを占めていたため、それほど男性性・女性性特性語は多くみられず、また、一次的語りと二次的語りの間での語りの大きな差異も見られなかった。

しかし、二次的語りにおいては「ジェンダーレス男子」に関して「男性とは思えない」「女顔負けの」という形容が見られ、「女は美を磨くもの」「男は美に関わらないもの」という性役割観がベースとして存在すると言える。

では、そのような規範と「美を磨く男性」がどのように共存しているのだろうか。そこには、男性性特性語が「ジェンダーレス男子」の受容を助ける機能を果たしていると考えられる。すなわち、「ストイック」「勉強熱心」などの男性性特性語を用いて「ジェンダーレス男子」が美を磨く姿を語ることにより、「男らしい姿勢で美を磨く男性」像を成立させ、人々に受け入れられやすくしていると考えられる。

#### 4.2.6 資料7：日本テレビ「ナカイの窓」（2015.11.11 放送回）

今回取り上げるのは、“昭和世代 VS 平成世代 SP！どちらの世代が幸せなのかを大激論！”という回である。

出演者は、MCとして中居正広、陣内智則、昭和世代として島崎和歌子、大鶴義丹、出川哲郎、平成世代としてこんどうようち、マギー、菊池亜美であった。

番組構成は、こんどうようちの紹介、三つの対決テーマ（①恋愛、②学生生活、③仕事）に沿って昭和生まれと平成生まれそれぞれの立場からトークを行い、その後平成世代の流行りものの紹介と、出演者の心理分析が行われた。

##### ・一次的語りについて

語り手はこんどうようちである。男性性特性語はほぼ見られず、「恋愛や性においてリードする（積極的である）」の否定が行われたのみであった。また、女性性特性語は「おしゃれな」「美意識の高い」が観察された。

##### ・二次的語りについて

語り手は、出演者である中居正広、陣内智則、島崎和歌子、大鶴義丹、出川哲郎、マギー、菊池亜美と、番組制作者である。

男性性特性語は出演者の発言では役割期待として「恋愛や性においてリードする（積極的である）」が用いられ、「ジェンダーレス男子」の実態を説明するナレーションにおいては「恋愛や性においてリードする（積極的である）」の否定が行われた。また、女性性特性語は「おしゃれな」が観察された。

##### ・考察

一次的語りにおいてみられた特徴は、「ジェンダーレス男子」の語りにおいて頻繁に観察されるものであった。

二次的語りにおける一次的語りとの大きな違いの一つ目は、「恋愛や性においてリードする（積極的である）」ことの期待であった。女性に興味がなく経験もないと述べたこんどうようちに対して他の出演者が「オネエなの？」と問うなど、ゲイでない男性は女性に興味があり積極的であるべきであるという旧来の男性性に基づいた役割期待が幾度も見られた。また、中性性を強調する言葉がナレーションにおいては度々用いられたが、それらは全てルックスやファッションなどの外形に関する語りにおいてのみであり、生き方や考え方などの内面に関してはその中性性が語られることは無かった。

#### 4.2.7 資料8：日本テレビ「解決！ナイナイアンサー」（2015.09.01 放送回）

今回取り上げるのは、“絶食系男子！？新世代カリスマに大人一同あ然”という回である。その内容は、「新常識軍団 VS 良識軍団」という構図のもとでトークを行うというものであった。「ジェンダーレス男子」のとまんは、若者のカリスマであり「超毒舌で女性陣を敵にまわす？！謎の美少年」として紹介されていた。

出演者は、MCとして矢部浩之、岡村隆、松本志のぶ、新常識軍団としてとまん、大沢ケイミ、藤田ニコル、相沢まき、良識軍団として和泉節子、杉村太蔵、北斗晶、鈴木拓であった。

##### ・一次的語りについて

語り手はとまんである。男性性特性語は観察されず、「男らしい」「活動的な」「恋愛や性においてリードする（積極的である）」は否定されていた。また、女性性特性語は「線の細い」「かわいい」「おしゃれな」「美を磨く」「家事をする」「身だしなみに気を配る」が観察され、「女らしい」

は否定されていた。

・二次的語りについて

語り手は、出演者である矢部浩之、岡村隆、松本志のぶ、大沢ケイミ、藤田ニコル、相沢まき、和泉節子、杉村太蔵、北斗晶、鈴木拓と、番組制作者である。

男性性特性語は、役割期待として「恋愛や性においてリードする（積極的である）」が頻繁に用いられた。また、女性性特性語は「おしゃれな」「身だしなみに気を配る」が観察されたが、同時に「線の細い」「美を磨く」の二つは役割期待をしない項目として多用された。

・まとめ

二次的語りにおける役割期待は、上記の結果から分かるように、「男は恋愛や性に積極的であるべき」「美を磨くのは女」というステレオタイプに基づいたものであった。とまんが美容に気を使う姿が映されたシーンでは、会場から笑いがおこったり「えー！」という反応が挿入されるなどの否定的な印象操作が行われており、男性出演者が「オカマ」と呼ぶ場面や、とまんの臀部や胸を触るなどする場面もあった。また、「ジェンダーレス男子」の生き方や考え方という内面を見るのではなく、ルックスなどの表面的な突飛さのみに注目してその部分を誇張し、面白おかしく描こうとしているという特徴がみられた。

また、「線の細い」という特性語に関しては、一次的語りで用いられている一方で、二次的語りでは期待していない役割であるとして特性語が否定している。この結果は一見、「ジェンダーレス男子」が自分から痩せていることを強調する語りをしているように思われる。しかし、番組内ではとまん登場時から「ウエスト 54 cm」というテロップを出し、スタジオでもとまんはその話題を振ってその華奢さを強調するなどの場面が

みられた。

その際には、女性出演者は「一緒に並べない！」などとリアクションをし、女性ととまんを比較する表現も行われた。これらをふまえると、とまんの体型を強調する語りは、女性に対して美=痩せ体型という図式を意識させる装置となっているように思われる。

また、この番組内でとまんは常に、性別に関係なく外見も中身も美しくあるべきとして、他者の美醜を判断する上で男女間に差を設けていなかった。「女性陣を敵に回す毒舌」とされた発言も、「結婚できない女性が自分の問題に目を向けることなく女子会と称して男性の悪口を言ったりすることは、自分のイメージを下げているだけでみっともない」「見た目が綺麗なのに結婚できないのは中身に支障があるからでは？」というものであり、内面と外見の美醜に関しては他の男性タレントに対しても辛口で批評を行っていた。

しかし、二次的語りにおいては「若くない女は女子ではない」「結婚できない女はダメ」というような旧来の「女らしさ」を女性に押し付けるような描かれ方になっており、とまんに対して反論する独身の女性タレントも笑いの対象にしている場面が見られた。

また、「ジェンダーレス男子」に対しては、「こんな人たちばかりになったら日本が崩れていく」「人として生きていくという道に反する」「理解したいとも思わない」というコメントもなされていたが、懸命にとまんに説教をする出演者とそれを聞き流すとまん、という構図を作ることで、笑いを生もうとしている場面もあった。

以上のように、二次的語りにおいては“美を磨く男子”だけでなく、“結婚できない女性”や“説教する老人”を笑うというバラエティにおいて多用される手法に近い傾向を示す語られ方がなされていた。また、

番組全体としては「ジェンダーレス男子」を直接的に否定するような内容ではないものの、「ジェンダーレス男子」の生き方や考え方という内面の新しさを紹介することはせず、外見的特徴を語ることで一過性のファッションブームに描きかえられている。

#### 4.2.8 階層別にみる語りの考察

ここまで、語り手別に「ジェンダーレス男子」に関する語りをみてきたが、この結果は現象の広がりと言語の変容を考える上で、2点の重要な事実を提示している。

一つ目は、この現象が広がっていくにつれて、現象の語り手の構成も多様化し、本来「ジェンダーレス男子」の核であったはずの生き方という内面の新しさが軽視されてファッションや美容という外面の新しさのみが受け継がれるという傾向があるということである。

そして二つ目は、男性性・女性性特性語を意識的に避けたり、どちらかに偏らないようにしていた「ジェンダーレス男子」に関する語りが、一つ目に挙げた変化を背景として、男性性や女性性を付与し強調する形で変容していつているということである。この特徴は、語り手が「ジェンダーレス男子」現象の中心から離れるほど顕著になると考えられる。

## 第5章 考察

### 5.1 語りの実態

本研究では、「ジェンダーレス男子」に関する語りは語り手によって様々な様相を呈し、さらに現象の拡散にともなって変容していることが確認された。

「ジェンダーレス男子」本人による一次的語りは、メディア介入以前、「男らしさ」や「女らしさ」を示す表現を避け、自分らしい生き方に関する語りをを行う傾向が強くみられた。確かに第一世代と比べれば、第三世代は流行に流されやすいという特徴が見受けられた。しかし、信念を貫くことや個性を大切にすること、そして「男らしさ」「女らしさ」から自由になるという「ジェンダーレス男子」特有の語りは、全世代共通であった。

だが、メディアによる現象の拡散が起こると、一次的語りは急速に変わっていく。まず、第三世代層が拡大し、語り手の構成に変化が起きた。新たに参入してきたのはメディアを介して「ジェンダーレス男子」に影響を受けた人々であり、彼らによって語られる「ジェンダーレス男子」は生き方や信念という内面の本質を失い、美やファッションという外面が強調されていった。

さらに、「ジェンダーレス男子」は人々に受け入れられるため、理解がしやすく、社会の規範に沿う存在になることを求められた。ここで起きたのが、「ジェンダーレス男子」のジェンダー化である。

第三世代の語りは「男らしさ」や「女らしさ」がみられるようになり、世代間の語りには大きくズレが生じ始める。しかし同時に、第一世代や第二世代にも「男である」と宣言する語りが求められるようになり、一次的語りそのものにゆらぎが生じていることが確認された。

二次的語りにおいては、「男らしさ」や「女らしさ」を強調する形で一次的語りを言い換え、ステレオタイプのメディア表現に絡めて「ジェンダーレス男子」を捉えなおす傾向がみられた。ここでは、「ジェンダーレス男子」の流行化とジェンダー化という、「ジェンダーレス男子」第三世代の語りにも生じていた変容が起こっていた。

このようにしてメディアや規範に飼い馴らされた「ジェンダーレス男子」は、三次的語りにおいてさらに姿を変えていくこととなる。

三次的語りは、二次的語りの影響を強く受け、二次的語りを通して「ジェンダーレス男子」を認識し、とらえ直している。そこには、「ジェンダーレス男子」のジェンダーレスたる所以は見る影もなく、「女っぽい男」「新たなおしゃれ」「若者の流行り」があるだけである。

## 5.2 「男らしさ」「女らしさ」規範がもたらしたもの

では、「ジェンダーレス男子」のジェンダー化はいかにして起こったのだろうか。

「ジェンダーレス男子」は、規範を打ち砕き新たな生き方を打ち立てる、いわば若者による革命であった。しかし、草食系男子がかつてメディアや大人たちによって叩かれたように、ジェンダーからの解放に対して抵抗感や危機感を感じる人々も少なくない。そのような中で「ジェンダーレス男子」が大きな抵抗にあわなかったのは、「ジェンダーレス男子」が人々に語られる中でその本質を剥奪されたからであった。そこにおいて特に大きな役割を果たしたのが、皮肉にも「ジェンダーレス男子」を社会に広めたテレビや雑誌などのメディアである。

メディアでは「ジェンダーレス男子」のファッションや美容という外見ばかりが取り上げられ、彼らの信念や生き方という内面は語られなか



った。むしろ「中身は普通の男の子」であると強調する語りさえ現れた。こうして本来の価値を奪われ、メディアによって扱いやすいかたちに変えられた「ジェンダーレス男子」は、人々に「男らしさ」が揺らいでいないことを確認させ、安心させる。

そして、人々に語られる中で付与された「男らしさ」「女らしさ」は、「ジェンダーレス男子」本人たちにも影響をもたらした。第三世代の参入である。メディアを通して「ジェンダーレス男子」に影響を受けた彼らは、もはや新たな生き方を体現する存在として「ジェンダーレス男子」を語ることはない。こうして、「ジェンダーレス男子」内部においてもファッションや美容という外面のみが受け継がれ、自分らしい生き方という本質はますます失われていった。

さらに、「ジェンダーレス男子」は女性を「女らしさ」規範に従わせるための道具としても用いられていると考えられる。例えば、バラエティ番組では、「ジェンダーレス男子」の体重やウエストサイズを強調し、女性と比較するなどして、痩身を煽るような表現が度々行われる。また、美容やメイクに励む「ジェンダーレス男子」の様子は「女子力が高い」と形容され、「女らしくない女」は居場所を無くしていく。

こうして、ジェンダー化された「ジェンダーレス男子」は、「男らしさ」により社会から承認され、「女らしさ」によってジェンダー規範を強化することとなった。

## 第6章 結論

新しく誕生した現象が人々に広く受け入れられ根付いていくには、それが理解しやすいものでなければならない。では、人々にとって、分かりやすさとは何か。それは、我々が持っている既存の枠組み内で捉えられることではないだろうか。「ジェンダーレス男子」の場合、その既存の枠組みとはジェンダー規範であった。

新たな生き方の革命として誕生した「ジェンダーレス男子」。しかしこの動きの拡大とともに、次第に「ジェンダーレス男子」は分かりやすさを求められることとなった。人々の語りは「ジェンダーレス男子」を簡略化し、装飾し、作り変える。本質は失われ、言説が社会を構築する。

こうして人々は、語りを変換装置として「ジェンダーレス男子」をジェンダー化し、飼い馴らすことに成功した。今や「ジェンダーレス男子」は、その「男らしさ」で承認され、「女らしさ」でジェンダーを強化する。このアイロニーこそが「ジェンダーレス男子」現象なのである。

では、本来の「ジェンダーレス男子」はもはや失われてしまったのだろうか。SNS という、生き残る土壌はある。そこでは我々は、他者の語りを介さずして「ジェンダーレス男子」本人たちの語りに直接触れることが出来るだろう。しかし、その語りも本当に本人の語りといえるのか。他者によって語らされ、規範によって作り変えられているのではないか。「男らしさ」と「女らしさ」を脱ぎ捨てて自分らしく生きる、その自分らしさとは何だろうか。

インターネットの発達により、世界中の人々や物事と繋がるのが可能になった現代は、誰かに語り語られることを避けられない時代でもある。Twitter でいま起きた出来事をつぶやき、Facebook で近況報告をし、Instagram で撮った写真を投稿する。「いいね」の数やフォロワー数、

記事のシェア数など、どれだけ人に共感してもらえたのかが数値化される。より多くの人に認められる自分こそが価値を持つこの世界では、自分自身をいかに語り、他者をいかに語るのかということは非常に重要な価値獲得のキーとなっている。

そのような語りの溢れる現代において、いかにして自分らしさを獲得するか。これは「ジェンダーレス男子」のみならず、誰しものが抱える課題なのかもしれない。語りという装置が現実を簡略化し、装飾し、作り変える。この危うくて興味深い事象は、我々の生活のいたるところで起きている。

## 謝辞

本論文を作成するにあたり、指導教官である落合恵美子教授から、丁寧かつ熱心なご指導を賜りました。ここに感謝の意を表します。

## 参考文献

- 青野篤子・森永康子・土肥伊都子,1999,『ジェンダーの心理学』ミネル  
ヴァ書房
- 安達圭一郎・上地安昭・浅川潔司,1985,「男性性・女性性・心理的両性  
性に関する研究（I）—日本版 BSRI 作成の試み—」『日本教育心理学  
会総会発表論文集』27(0):484-485
- 天野正子ほか編,2009,『新編日本のフェミニズム⑦ 表現とメディア』  
岩波書店
- Erving Goffman,1988,*Gender Advertisements*, HarperCollins  
Publishers
- 飯野智子,2013,「「男らしさ」とファッション・美容」『実践女子大学紀  
要』34, 83-99
- 伊藤公雄・牟田和恵編,1998,『ジェンダーで学ぶ社会学』世界思想社
- 伊藤裕子,1986,「性役割特性語の意味構造:性役割測定尺度（ISRS）作成  
の試み」『教育心理学研究』34(2):168-174
- 伊藤裕子,1978,「性役割の評価に関する研究」『教育心理学研究』  
26(1):1-11
- 井上輝子・女性雑誌研究会,1989,『女性雑誌を解読する』垣内出版株式  
会社
- William, J.D. & Best, D.L. ,1982,*Measuring sex stereotypes : a  
thirty-nation study*, Sage Publications
- 上野千鶴子,2009,『セクシィ・ギャルの大研究』岩波書店
- 遠藤織枝編著,2007,『ことばとジェンダーの未来図』明石書店
- 大石さおり・北方晴子,2013,「現代日本社会における男らしさ測定尺度  
の作成」『文化学園大学紀要. 服装学・造形学研究』44: 63-73

- 落合恵美子,1995,「ビジュアル・イメージとしての女」『日本のフェミニズム(7) 表現とメディア』岩波書店
- 小寺晴幸編,2016,『ジェンダーレス Style——オシャレ男子——』株式会社インテルフィン
- 加藤知可子,1999,「BSRI 日本語版による性役割タイプの分類」『広島県立保健福祉短期大学紀要』4(1): 7-11
- 金井淑子,2008,『身体とアイデンティティ・トラブル』明石書店
- 神田靖子・高木佐知子編,2013,『ディスコースにおける「らしさ」の表象』大阪公立大学共同出版会
- 北方晴子,2007,「メンズファッションと未来派」『文化女子大紀要. 服装学・造形学研究』38
- 北九州市立男女共同参画センター・ムーブ編『ポップカルチャーとジェンダー』2012, 明石書店
- Kyoko Fuse, 2015, 「え！？その服でデートに来るの？マジ！？」『Ranzuki』16(12):92-95
- 国広陽子・東京女子大学女性学研究所編,2012,『メディアとジェンダー』勁草書店
- 小出寧,1999,「ジェンダー・パーソナリティ・スケールの作成」『実験社会心理学研究』Vol. 39, No. 1:41-52
- 佐伯順子,2009,『「女装と男装」の文化史』講談社選書メチエ
- 坂本佳鶴恵,2011,「女性・男性雑誌とジェンダー規範、ファッション意識: 首都圏男女への質問紙調査の分析」『お茶の水女子大学人文科学研究』7: 139-152,
- サビーネ・フリーシュトック他編,2013,『日本人の「男らしさ」』明石書店

- 佐藤健二・吉見俊哉編,2007,『文化の社会学』有斐閣
- 鹿内啓子・後藤宗理・若林満,1982,「女子大生の社会的・職業的役割意識の形成過程に関する研究：性役割タイプと自己能力評価を中心として」『名古屋大学教育学部紀要. 教育心理学科』29: 101-136
- ジェンダーレス男子,2015,『ジェンダーレス男子。』双葉社
- 鈴木涼美, 2017, “男らしさって何？ なぜ日本社会に“ジェンダーレス男子”は必要なのか  
“( [http://m.elle.co.jp/culture/feature/genderless\\_guys\\_report\\_170530](http://m.elle.co.jp/culture/feature/genderless_guys_report_170530), 2018.0104)
- Spence, J.T., & Helmreich, R.L.,1978,“Masculinity and femininity: Their psychological dimensions, correlates, and antecedents,”  
Austin, TX: *University of Texas Press.*
- 千田有紀,2009,『ヒューマニティーズ 女性学／男性学』岩波書店
- 高井範子・岡野孝治,2009,「ジェンダー意識に関する調査—男性性・女性性を中心にして—」『太成学院大学紀要』11:61-73
- 多賀太,2006,『男らしさの社会学』世界思想社
- 田中三生,2011,『ジェンダーとジェンダーフリー・バッシング』明文書房
- 辻泉,2013,「雑誌に描かれた「男らしさ」の変容」『人文学報』No.467
- 東京女性財団,1996,『性差意識の形成環境に関する研究：性差に関連する文化の形成および教育効果に関わって』東京女性財団
- 読モ BOY&GIRLS！公式 HP (<http://dokumo-web.jp/>, 2018.01.04)
- 廣瀬園美編, 2016, 「見習いたいのは“美意識高い系男子”」『CLASSY』33(8):188-191
- 深澤真紀,2009,『草食男子世代』光文社知恵の森文庫

- 福富護編,2006,『朝倉心理学講座 14 ジェンダー心理学』朝倉書店
- Bem,S.L., 1974, “The measurement of psychological Androgyny,”  
*Journal of Consulting and Clinical Psychology*,42(2):155–162
- 前田和男,2009,『男はなぜ化粧をしたがるのか』集英社新書
- 丸本貴司,2017, “ジェンダーレス男子について” (<https://note.mu/>,  
2018.01.04)
- 宮台真司・辻泉・岡井崇之編,2009,『「男らしさ」の快樂』勁草書房
- 森岡正博,2011, 「「草食系男子」の現象学的考察」『The Review of Life  
Studies』 1:13-28
- 諸橋泰樹,2002,『ジェンダーの語られ方、メディアのつくられ方』現代  
書館
- 諸橋泰樹,2009,『メディアリテラシーとジェンダー』現代書館
- 横田尚美,2012,『20世紀からのファッション史』原書房
- 渡辺恒夫,1989,『男性学の挑戦—Yの悲劇?—』新曜社

「400字詰め原稿用紙138枚相当」